

さつま
×
しごと Vol.06



にしだ たいぞう
西田大造さん (37)

湯田地区出身。実家の西田竹材工業所は、3代続く竹製品を作る会社。宮之城高校（現薩摩中央高校）を卒業後、愛知県で日本特殊陶業に就職。26歳で帰郷。家業を継いだ現在は、妻の裕子さんも同社に勤めている。湯田分団に所属し、4人の子どもの父でもある。



竹工職人
×
西田大造

▼「以前は外国の大量生産品ばかりでしたが、最近は質を求める流れになり丁寧な仕事が増えようになりました。機械で加工しても、最後はやっぱり手作業です」と品質を大切にしている西田さん。「昔は多くあった竹の加工会社が、今では数えるほどしかありません。この会社も私がさつま町に戻ってきたときには従業員が5、6人しかいませんでした。今では若い人が多く入ってきて、その人たちがスキルアップをしていくのを見ているとうれしくなりますね」とやりがいを話します。

▼早掘りタケノコの産地で全国でも有数の竹林面積を誇るさつま町。特産品としてのタケノコや竹を使った町おこしなど、竹は町を語る上で欠かせません。そのような中、湯田地区で昭和20年に創業し、竹を使った調理器具などを製造、販売しているのが有限会社西田竹材工業所。3代目として日々技術を磨いているのが西田大造さんです。

▼西田さんは、宮之城高校を卒業後、県外に就職。しかし「地元で何かしてみたい」と26歳でUターンし家業を継ぎました。「子どもの頃は作業を見ても特に何も思いませんでした」と話す西田さんですが、実際に竹を扱うとその難しさを実感。「竹は自然のものなので反りや曲がりがあり、加工が難しい素材です。だけど、身近に豊富にあるのは良いですね」と話します。

▼レーザーで裁断やマーキングと呼ばれる細かい彫り込みができる加工機を持つ同社は、しゃもじやターナーといった製品のほとんどを県外に向けて販売しています。西田さんは「ブランド化を目指す会社から、商品にレーザーで細かいマーキングを入れる依頼がきます。カットとマーキングが両方できる機械を持っているのはこの業種では珍しいと思います」と説明します。



パソコンからデータを入力することで裁断や彫り込みができるレーザー加工機。



1mmに満たない細かい模様も正確に表現できます。

Put on a Mask



ワクチンを接種しても
マスクを着けよう！

ワクチンを接種することで、新型コロナウイルスの発症を予防する効果だけでなく、感染を予防する効果を示すデータが報告されています。しかし、その効果は100%ではなく、変異によりワクチンの効果に影響が出る可能性もあります。

ワクチンを接種した方も、引き続き3密の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いやアルコールによる消毒などの感染症対策をお願いします。

参照：厚生労働省新型コロナワクチンQ&A

感染力が強い**変異株**にご注意ください!!

2021年版

ゼロ密を目指そう!
～一つの密でも避けましょう～



人と会うときは



- ・人と**十分な距離**を保つ！
- ・**混雑している場所や時間**を避ける！
- ・**オンライン**の利用や**時差出勤**を！
- ・**屋外でも密接、密集を避ける！**

飲食するときは



- ・**少人数・短時間**で、**大声は避けて！**
- ・**ガイドラインを守ったお店**で！（アクリル板の設置、消毒、換気の徹底など）
- ・**テイクアウト**や**デリバリー**も！

ポイント

会話時はマスクを着用



※体調不良時の出勤・登校などはお控えください。